

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2016年5月号 通巻89号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2016

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

夜行性もいろいろ

昼間は絶対に活動しないのではない

	朝	昼	夕	夜	総件数
タヌキ	5%	26%	8%	61%	1179
タヌキ(脱毛症状)	2%	67%	12%	19%	124
タヌキ(脱毛症状除く)	5%	21%	8%	66%	1055
ハクビシン	4%	13%	7%	75%	1442
アライグマ	8%	13%	11%	68%	96

データベースに記録された目撃情報数が先日4000件を超えたので、今回は4000件の目撃情報を対象にしている(2016年4月24日まで)。ただし東京都23区のみ。

「朝」「夕」は日出/日没時刻の前後1時間(計2時間)を指す。「昼」「夜」はそれ以外の時間。

タヌキもハクビシンもアライグマも凶鑑などには「夜行性」と書かれています。それはその通りなのですが、目撃情報の集計からは夜行性といっても動物によって程度が異なることに気付いていました。

タヌキはやや昼行性寄り

動物の活動時間帯を朝/昼/夕/夜で集計してみたのが上の表です。昼夜の長さは季節によって変化しますので、日出/日没時刻を基準に時間帯を区切っています。(深夜0時以降は人間の活動が非常に少ないので目撃されることも少なくなります。逆に昼間は目撃される機会が増えます。そのため夜は過小、昼は過大になる傾向があることにご注意ください。)

この表からは昼に目撃されている例も少なくないことがわかります。夜行性という「絶対に昼間には活動しない」と思われている方がいますが、そんなことはありません。人間にも夜更かしさんがいるように、動物だって同じなのです。ただし、

比べてみるとタヌキは昼に目撃されている割合が高いことがわかります。同じ夜行性でも動物の種類によって実態は違っていることがわかります。アライグマは目撃情報数が少ないものの、ハクビシンに近いことがわかります。

疥癬症だと昼夜逆転

タヌキの場合、疥癬症の個体は昼間に目撃されることが多いことは以前からわかっていました。そこで、脱毛症状(疥癬症の症状)であるかどうかで別々に集計をしてみました。すると、脱毛症状ではなんと昼夜逆転して昼間の目撃の方が多いという結果が出てきました。

これは次のように説明できます。脱毛したタヌキは冬の夜は寒すぎて活動ができなくなります。代わりに暖かい昼間に日光に当たり出ているのですが、そうすると人間に発見されることが多くなってしまいます。実際、脱毛症状で昼に目撃される例は冬の方が多いです(しかも晴れ

た暖かい日であることが多いようだがそこまで集計はしていない)。夜中だと毛の状態までははっきりと確認できないこともあるでしょうから見逃されている例はあるはずで、夜の数字は少なめになっているかもしれません。ただ、それを加味したとしても昼間の目撃が多くなっていることは確かです。

また、微妙な差ですが朝よりも夕の方が目撃確率が高くなっています。動物たちは夜明ぎりぎりまで活動することはあまりないのかもしれない。

このような分析は多数の目撃情報あってこそそのものです。皆様が参加することで新しいことがわかる、という新しい研究方法と言えます。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>